

【国語】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「聞く能力」については、事実と意見の関係を考えながら内容を聞く力をみる問題など、多くの問題の正答率が90%を上回っており、力が十分身に付いている。
- 「書く能力」については、主述が整った文を書く力をみる問題の正答率が70%を上回っており、力が身に付いている。他方、見方や考え方を深めながら書く力をみる問題の正答率は60%程度であり、力が十分身に付いているとはいえない。
- 「読む能力」については、話の展開を考えながら登場人物の心情や行動を読む力、主題をとらえながら読む力をみる問題の正答率が90%を上回っており、力が十分身に付いている。他方、比喩表現に着目し文脈の中での意味を理解しながら読む力をみる問題の正答率は50%を下回っており、力が十分身に付いているとはいえない。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、中学校第2学年までに学習した漢字を正しく読む力、慣用的な表現や敬語を正しく使う力をみる問題など、多くの問題の正答率が70%を上回っており、力が身に付いている。他方、漢字を正しく読む力、文の意味をとらえて語句を正しく使う力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがあり、力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 事実と意見の関係を考えながら話の内容を聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> ㊦の四

小林さんは、「言葉遣いの乱れ」について最終的にどのような意見をお持ちでしたか。最も適切なものをア～エから選び、符号で書きなさい。

- ア 「～じゃん」などの若者言葉には地域性があるので、地域によって使い分けをすることが大切だ。
- イ 言葉遣いの乱れが調査で明らかになったので、いつでも、どこでも、誰とでも正しい言葉遣いをすることが大切だ。
- ウ 多くの仲間が若者言葉を使っていることが分かったので、その使われ方に誰もが慣れることが大切だ。
- エ 若者言葉を使っているのは限られた人だけだったので、使っている人にはその場で注意することが大切だ。

<結果> 正答率 95.3% (正答…イ)

<分析>

この設問は、発表の事実と意見とを聞き分け、発表者のものの見方や考え方を聞く力をみる問題である。「私は、この調査を通して…」という表現から、これまでの調査をまとめていること、文末の表現で他の部分が「～感じました。」「～高いそうです。」等であるのに対して、「～大切だと考えました。」となっていることから、最終的な意見であることを聞き分けることができたと考えられる。昨年度も同様に正答率が高い傾向にあり、事実と意見の関係を考えながら話の内容を聞く力は十分身に付いていると考えられる。

(2) 話の展開を考えながら、登場人物の心情や行動を読む力をみる問題の例。（「読む能力」）

<問題> ㊦の二

1 と 2 に当てはまる智之の会話文として、最も適切なものをア～エから選び、符号で書きなさい。

- ア 「ほんまに、わしが見にいくんか」
- イ 「だいじょうぶじゃ、こんローブを伝えていくけん」
- ウ 「健兄いの言うとおりに、もう少し様子を見るわ」
- エ 「わし、潜ってみるわ」

<結果> 正答率 92.8% (正答…1・エ 2・イ)

<分析>

この設問は、話の展開を考えながら、登場人物の心情や行動を読む力をみる問題である。「智之が素早くシャツと半ズボンを脱ぎ始めると」から、これから海に潜る行動であることを、「流れが強えんじやぞ」という兄の言葉にどう答えれば話の展開に即するのかをとらえることができている。場面ごとの読み取りではなく、場面相互の関係を把握しながら文章全体の展開を読み取っていく力が身に付いてきていると考えられる。

(3) 自分のものの見方や考え方を深めながら書く力をみる問題の例(「書く能力」)

<問題> 四の二

右の「一」で書いたことについて、あなた自身の感想や考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなた自身の感想や考え、第二段落ではその根拠を具体的な例や体験を交えて書きなさい。ただし、次の(条件)に従うこと。

(条件)

- ①題名や氏名は書かないこと。
- ②書き出しや段落の初めは一字下げること。
- ③解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

<結果> 正答率 59.2%

<分析>

この設問は、「漢字についての意識」の資料を見て、自分のものの見方や考え方を深めて書く力をみる問題である。解答欄に記述した生徒は90%程度であり、資料から分かることを表現しようとする意欲がみられた。誤答は、「第一段落は感想や考え、第二段落は具体的な例や体験を交えた根拠という二段落構成」という設問で要求されていることに的確に答えられていないものが多かった。また、書かれている内容のつじつまが合わなかったり、四の一で書いたことについてまとめられていなかったりなど、自分のものの見方や考え方を整理する力が十分身に付いていないと考えられる。これは昨年度の傾向と同じであり、書く力を本質的に高めていくための一層の改善が必要であると考えられる。

(4) 小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題の例(「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> 三の一の6・8・10

次の1～10の文中の___線部について、漢字は平仮名に、カタカナは漢字に直して書きなさい。(1～5略)

- 6 最後の走者がツウカする。
- 8 運動部にショゾクして活動する。
- 10 岩のさけめからイズミがわく。

<結果> 正答率 6…65.3% 8…53.1% 10…83.8%

(正答…6・通過 8・所属 10・泉)

<分析>

この設問は、小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。昨年度の正答率と比較すると、2問とも同様の傾向であった。誤答は、「過」「属」の同音異字を書いたり、空欄であったりしたものが多かった。画数の多い漢字や紛らわしい部首(しかばね・まだれ・がんだれ等)をもつ漢字があると正確に書けない傾向がみられる。また、熟語の意味から用いる漢字を考える力も低いと考えられる。特に、「所属」は正答率が低く、日常生活の中でも使用する漢字なので、日頃から漢字で表記することを指導したい。生徒の「書きたい、使ってみたい」という必然性を大切にしながら、継続して繰り返し指導することが大切であると考えられる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「読むこと」の領域においては、扱う指導事項の關係に留意して、年間指導計画を作成することが大切である。第1学年の指導事項「イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。」と、第2学年及び第3学年の指導事項「イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。」の関連を考慮して単元を構成したり、第2学年及び第3学年の指導事項「ア 文章の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること。」を繰り返し指導しながら、「ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。」でも活用できるよう単元構成を工夫したりすることが必要である。
- ・「書くこと」の領域においては、指導事項「エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。」を扱う単元に重点を置くとともに、継続的に指導することによって、相手に自分の感じたことや考えたことが効果的に伝えられる力を身に付ける指導をすることが重要である。
- ・生徒にとって必然性のある学習になるようねらいを設定し、生徒自らが評価し、変容を確かめられるような単元を設定する。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」の指導においては、事実と意見の的確な組立てや、論理の展開の明確さに気を付けて話したり、聞き取ったりする指導が必要である。そのために、スピーチメモや聞き取りメモを活用していくことが大切である。また、普段の授業の発言の中でも、「立場と根拠を明らかにすること」等にこだわりがもてるよう、指導を積み重ねていくことが大切である。そのために、評価項目を明確にし、ビデオやテープ等で自分の活動の様子を振り返ったり、相互評価を用いて聞き手からの声を生かしたりするなどの工夫が必要である。
- ・「書くこと」の指導においては、自分の立場を明らかにし、その根拠を自分の体験や一般的な事実などから見付け、まとまりのある文章を書くように指導する。その際に、メモやカード等、構成表を活用して、文章全体を見通して考えられるよう工夫する。このような点を明確に伝える参考作品を提示することも有効である。1年生で学習する内容も踏まえ、繰り返し指導する中で、文章の構成の仕方を身に付けられるよう年間を通して指導していくことが大切である。
- ・「読むこと」の指導において文学的な文章を扱う場合には、叙述の詳細な部分や場面だけの読み取りに終始することなく、作品全体を通して、どのような表現に着目させるのかに配慮し、場面と場面を関連付けてとらえさせることが大切である。説明的な文章を扱う場合には、中心の部分と付加的な部分、事実と意見、構成や展開等の表現の仕方の何を学ぶのかを明確にし、そこで培った力が「話すこと・聞くこと」や「書くこと」において生かせるような指導を工夫する。また、文章を読む場合には「どんな書きぶりであるのか」「根拠はどこに書いてあるのか」「(二つの文章を比較して) どのような点で、それぞれに説得力があるのか」等、目的的に読む習慣を身に付けていくことも重要である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・国語科の授業で身に付けさせた力を、他教科の授業、総合的な学習の時間、日常生活等でも発揮させ、定着を図るように配慮する必要がある。
- ・辞書類の使用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、教室の掲示物の文字等にも配慮できる学習集団を育成する。
- ・生徒が主体的に資料を活用しながら情報活用能力を高められるよう、図書館等の環境整備に努める必要がある。